

臨床研修修了後の進路

—研修医は臨床研修中の経験によって3年目の志望科を変更したか—

青木 昭子¹⁾, 後藤 英司¹⁾, 榊原 秀也¹⁾, 西巻 滋¹⁾,
和田 修幸¹⁾, 長谷川 修²⁾, 古川 政樹²⁾

¹⁾ 横浜市立大学附属病院 臨床研修センター,

²⁾ 横浜市立大学附属市民総合医療センター 臨床研修センター

要 旨：平成18～22年3月に横浜市立大学附属2病院の臨床研修プログラムを修了した研修医402人（男性217，女性185）の進路をまとめた。3年目に選択した診療科は内科（神経内科を含む）32%，麻酔科7.7%，外科7.5%，精神科と小児科7.2%の順に多かった。女性比率が高い診療科は皮膚科，産婦人科，麻酔科，小児科，低い診療科は外科，整形外科，泌尿器科であった。平成20～22年に臨床研修を修了した149人に専門とする診療科を選択した時期，研修中に志望が変わったかどうかを質問した。38人（25%）は研修開始前（医学部在学中）に志望した診療科に進み，3分の2が研修2年目に進路を決めたと回答した。研修開始前に考えていた診療科と異なる診療科を選択した29人中11人は内科系から外科系に，7人は外科系から内科系に変更していた。当院では平成22年度の臨床研修プログラムで外科，小児科，産婦人科，精神科を必修からはずした。この変更が研修医の進路選択にどのような影響を与えるか今後も調査を続けていきたいと考えている。

Key words: 臨床研修 (Postgraduate medical training), 外科医 (surgeon), 進路選択 (Career choice)